



齋藤三郎展

SAITO SABURO : A Retrospective

雪国に生まれた

ぬくもりのやきもの



《色絵籠に蕨文大皿》 樹下美術館蔵

2023

7/15(土) - 10/9(月祝)

休館日 | 月曜日(祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日 ※8/12、8/14、9/24 は開館

開館時間 | 午前9時 ~ 午後5時

入館料 | 一般 510円(410円) 小・中・高生 260円(210円)

※()内は20名以上の団体料金 ※幼児および上越市内の小・中学生は無料

 小林古徑記念美術館

Kobayashi Kokei Memorial Museum of Art

〒943-0835 新潟県上越市本城町7-1(高田城址公園内)
tel.025-523-8680 fax.025-530-6033
<https://www.city.joetsu.niigata.jp/site/kokei/>





齋藤三郎展

SAITO SABURO : A Retrospective

「ろくろをやっている時は、ひとつの空想の世界にあるんですよ

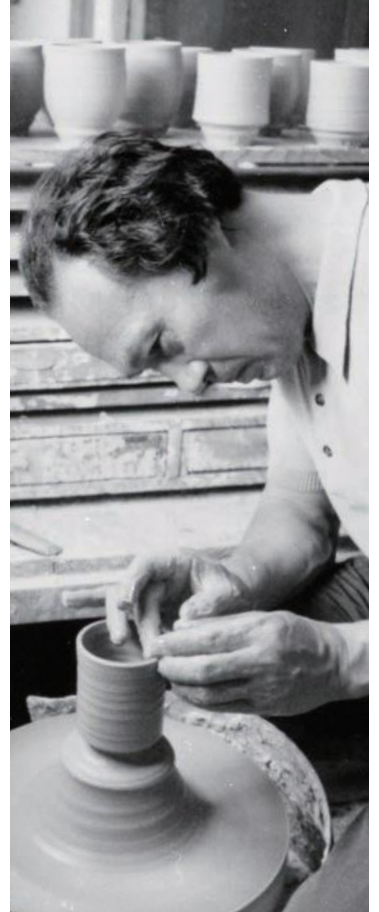
でも、やきものは焼くまでわからない

予想外のものができるし、そこに喜びもあれば失望もある」 — 齋藤三郎

栃尾町(現・長岡市)の商家の三男として生まれた齋藤三郎(1913~1981、号・陶齋)は、18歳の時に陶芸家・近藤悠三、のちに富本憲吉に師事して陶芸の道を志しました。1938(昭和13)年から約3年にわたって、寿屋(現・サントリー株式会社)の寿山窯で作陶活動を行いました。その後、応召し中国へと出征、1946(昭和21)年に復員し、兄を頼って高田の久昌寺に身を寄せます。やがて寺の裏に窯を築き、再び作陶を始めました。

齋藤は二人の師から大きな影響を受けながらも、独自の作風を求め、昭和20年代から多彩な作風を展開していきます。白磁、染付、色絵、辰砂、鉄絵など、常に新しい形や技法、釉薬を試し、日常の写生から独自の文様を作り出していきました。また、高田の人々や疎開していた文人・芸術家との交流も作品に深みを与えました。味わい深い絵付けや色合い、おおらかで温かみのある造形が多くの人々から愛され、今に至っています。

本展覧会では、齋藤三郎生誕110年を記念し、その芸術と人となりをふりかえります。



《色絵籠に椿飾皿》個人蔵



《赤絵落椿榴文壺》樹下美術館蔵



《緑地金彩秋草文陶箱》樹下美術館蔵



《壺に榴文皿》個人蔵

本展だけのお得な割引

「着物割」… 着物や浴衣で来館の方は団体料金で入館できます

「さぶろうさん割」… 名前が「さぶろう」の方は身分証提示で無料で入館できます

「樹下美術館との相互割引」… 割引券と引き換えに団体料金で入館できます

会期中のイベント

● リレー・トーク「齋藤三郎、人と芸術」

齋藤三郎の人となりや芸術について作品を見ながら語っていただきます。

日時：①7月17日(月・祝) ②9月9日(土) 各日も午後2時～

講師：① 齋藤尚明氏(陶芸作家・二代陶齋) ② 杉田玄氏(樹下美術館館長・医師)

● タッチ&トーク

作品を鑑賞した後、実際に作品に触れてその魅力を感じます。

日時：7月22日(土) / 8月20日(日) / 9月16日(土) 各日も午後2時～

● 美術館で夏やすみ!

オトナもコドモも生まれ! 美術館で楽しい夏の思い出を作りましょう。

ミニワークショップや緑日、なぜ解きツアーを行います。

日時：8月5日(土) 午前10時～午後3時30分(材料がなくなり次第終了)

※材料費のほか、入館料が必要です(幼児および上越市内の小・中学生は無料)

イベント詳細は美術館公式SNSをご覧ください。



【交通案内】

公共交通機関で越越しの場合

- えちごトキめき鉄道「高田駅」から、徒歩約15分
- 「高田駅前案内所」からバスにて「高田城址公園」下車、徒歩約5分

車でお越しの場合

- 北陸自動車道 上越ICをおりて、国道18号線 鴨島立体交差点右折、高田城址公園内(約15分)
- 上信越自動車道 上越高田ICをおりて、高田城址公園内(約10分)



Kobayashi Kohei Memorial Museum of Art
〒943-0835 新潟県上越市本城町7-1(高田城址公園内)
tel.025-523-8680 fax.025-530-6033 https://www.city.joetsu.niigata.jp/site/kohei/



美術館HP



公式Facebook



公式Instagram